

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	信州大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	双方向ワークショップ型地域作り社会人教育		
主たる研究科・専攻名	経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 渡邊 裕		

[教育プログラムの概要] 平成15年度 専攻に地域社会イニシアティブ・コース設置 (1コース)

(1) 本プログラムの趣旨とコース概要

経済・社会政策科学研究科は、平成元年、「政策」をキーワードに社会人教育を主眼として創設された、社会科学系・**社会人大学院**の草分け的存在である。その実績をもとに、平成15年4月、地域特有の諸課題を自ら発見しその解決に主体的に取り組む人材の育成を主目的として、本コースが新設された。以来、自治体職員、医療・福祉法人・NPO等の専門職員など、**地域作り**に貢献する人材育成のノウハウを蓄積してきた。

本研究科(とりわけ本コース)の修了生は、研究成果をもとにそれぞれの職場や地域社会で文字通り**イニシアティブ**を発揮して活躍しているが、平成18年には修了生による組織(信州大学地域社会イニシアティブフォーラム、略称「信大地域フォーラム」)の結成を機に、「地域からの大学院生」「地域に戻った修了生」「教員」の三者による**双方向ワークショップ教育**が本格始動し、**大学・社会連携**を深めつつある。

(2) 本プログラムの教育目標

本プログラムでは、次の3つを教育目標としている。

- A. 自分の仕事(活動)の社会における位置の客観的見直し
- B. 自分の仕事(活動)の抱える問題点・課題の洗い出し
- C. 改善への政策的提言(学位論文)の作成

(3) 本プログラムの教育展開

上記AからCの教育目標を達成するため、必修(研究指導)3科目6単位、全員に履修奨励する4科目8単位、そして選択履修(8科目16単位)を次のように配置している。(○囲い数字は単位数)

		必修科目6単位	履修奨励(ワークショップ)科目8単位	選択科目16単位
1年	前期	(アドバイザー)	<b>【ツール獲得支援】</b> 調査、分析、情報発信の方法Ⅰ (フィールドリサーチの方法と実践)②(1年前期)  <b>【地域課題支援】</b> 地域活性化WSⅠ②(通年)  <b>【課題探求支援】</b> 個人課題研究WSⅠ②(通年) ↓ A. 仕事見直し B. 問題点洗い出し	・テーマ研究WS (②2科目) ・地域社会テーマ共通科目(②5科目) ・地域社会テーマ科目(②14科目) ↓
	後期	*研究指導Ⅰ②		
2年	前期	*研究指導Ⅱ②	<b>【課題探求支援】</b> 個人課題研究WSⅡ②(通年) ↓ B. 問題点洗い出し C. 政策的提言	B. 問題点洗い出し C. 政策的提言
	後期	*研究指導Ⅲ② (学位論文)		

\* 政策志向の学位論文の作成に向けて、個別の研究指導のほか、個人課題研究WSⅠ・Ⅱにおいて、1年次3回、2年次2回、各自の課題・研究テーマの合同報告会を行う。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

信州大学大学院 経済・社会政策科学研究科 地域社会イニシアティブ・コース

「双方向ワークショップ型地域作り社会人教育」プログラム

履修科目

- ◎ 履修奨励科目 (4科目)
- 必修科目 (3科目)

地域イニシアティブ発揮のための4つの能力の涵養

未整理、茫漠、情緒的だが切実な問題意識

入学

学生 (頭在ニーズ)

目標A：自分の仕事(活動)の社会における位置の客観的見直し

目標B：自分の仕事(活動)の問題点・課題の洗い出し

目標C：改善への政策的提言(学位論文)の作成

修了

「棚卸」プロセス ↓ 「深耕・固着プロセス」 ↓ 「政策提言作成」プロセス

1年

【ツール獲得支援科目】  
◎ 調査、分析、情報発信の方法 I

【地域課題支援科目群】  
◎ 地域活性化ワークショップ I

【課題探求支援科目群】  
◎ 個人課題研究ワークショップ I

【専門的視座獲得支援科目】地域社会テーマ共通科目・地域社会テーマ科目  
【ツール獲得支援科目】(履修奨励科目除く)

アドバイザー

● 研究指導 I

◎ 課題の的確な分析能力  
◎ フィールドリサーチ・発信能力

2年

【地域課題支援科目群】  
地域活性化ワークショップ II

【課題探求支援科目群】  
◎ 個人課題研究ワークショップ II

● 研究指導 II

● 研究指導 III

学位論文

◎ 課題解決の方向性発見能力  
◎ 地域の現状把握・分析能力

公開論文発表会

(地域の次のステージへ)

信大地域フォーラム

地域実践・情報発信

地域社会・職場

潜在的教育ニーズ

教育への参画・協働

問題発見・課題解決能力を地域社会に還元・発揮

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地域作り社会人の養成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った「課題探求支援科目」、「地域課題支援科目」、「ツール獲得支援科目」及び「専門的視座獲得支援科目」の配置など、体系的な教育課程の編成がなされ、その展開のための充実した指導体制が整備されている点は評価できる。

教育プログラムについては、「地域社会イニシアティブ」を具現する人材育成を目指す教育プログラムとなっており、地域社会の「課題発見と分析・考察を通じた解決能力を身につけさせる」ために、特に「個人課題研究ワークショップ」や、「信大地域フォーラム」の取組が計画されている点は高く評価でき、これまでに大学院生が地域社会の諸問題に取り組んできた実績からみても、その実現性、実効性が期待できる。ただし、地域社会との連携事業については、事業計画の成否を問うものであるため、実施に向けて更なる計画の具体化が望まれる。